

新潟県立新津工業高等学校同窓会

平成19年度(第1回)生徒海外派遣研修・報告書



平成19年10月

新潟県立新津工業高等学校同窓会

生徒海外派遣研修（推進会議）

ごあいさつ

常日頃 新潟県立新津工業高等学校に關係する皆様にはお健やかに過ごしの
ことと拝察いたします。

さて、このたび実施した『生徒海外派遣研修』の報告書が出来上がりましたの
で、是非ご覧いただきたいと存じます。

初めて体験された研修生諸君の率直な感想であります。

この研修制度は、平成18年霜月に行われた新津工業高等学校電気科閉科記
念事業において、多くの皆様からの御浄財が基金として運営され、平成19年
8月に はじめて実施されたものです。

研修に参加された 熱意あふれるチャレンジ精神旺盛なる生徒諸君 大変ご苦
労様でした。

この報告書と共に、推進会議では次回に繋がるよう さらなる研究を加えてま
いりたいと思っております。

どうか皆様 メモリアルとして本書をご活用していただければ幸いです。
最後に、かさねがさね申しますが、新津工業高校を愛する皆様からのご支援に
感謝と御礼を申し上げて、報告書の発行に際しての御挨拶とさせていただきます。
本当にありがとうございました。

平成19年 神無月

新潟県立新津工業高等学校同窓会・生徒海外派遣研修

平成19年度・第一回中国研修 団長（推進会議議長） 岡 村 茂

目 次

1	参加者氏名	2
2	研修先及び日程	3
3	旅程詳細	4
4	研修生の感想	16
5	生徒海外派遣研修を終えて	19
	編集後記	20

1 参加者氏名

研修生	田 邊 公 一	3年1組 (機械科)
	森 山 貴 人	3年1組 (機械科)
	石 川 直 樹	3年2組 (機械システム科)
	佐久間 和 明	3年2組 (機械システム科)
随行者	岡 村 茂	団長 (推進会議議長)
	石 黒 利 幸	(推進会議委員)
	齋 藤 靖	副団長 (推進会議事務局長)
	島 倉 弘	(推進会議会計)
	島 倉 基	オブザーバー (大学生)

2 研修先及び研修日程

研修先 中華人民共和国 上海市

研修期間 平成19年8月29日（水）～9月1日（土） 3泊4日

日程	月日（曜日）	地名	現地時刻	交通機関	日程	朝食	昼食	夕食
1	8月29日 （水）	新潟空港 新潟空港発 上海着 静安区	11:45 14:00 16:00 夕食後	中国東方航空 296便	各自、新潟空港集合 空路、上海へ 「リニアモーターカー」にて移動 龍陽路駅より専用バス 「外灘夜景」見学へ ＜上海泊＞	—	機	○
2	8月30日 （木）	嘉定区 嘉定区 嘉定区 湾区 静安区	朝食後 昼食後 夕食後		「上海大众工業学校」 「上海F1サーキット場」施設見学 「上海汽車博物館」見学 「新天地・淮海路」見学 「上海芸術文化」見学 ＜上海泊＞	○	○	○
3	8月31日 （金）	浦東新区 浦東新区 湾区 黄浦区 静安区	朝食後 昼食後 夕食後		「上海徐浦標準件有限公司」見学 「東方明珠TV塔」見学 「上海城市歴史展示館」 「豫園、豫園商域」見学 「静安寺周辺」にて反省会 ＜上海泊＞	○	○	○
4	9月1日 （土）	ホテル 上海発 新潟空港着	朝食後 9:25 13:00	中国東方航空 295便	専用バスで空港へ 空路、帰国の途へ 到着後、新潟空港で解散	○	機	—

3 旅程詳細

第1日目

集合・出発

新潟空港に午前 11 時 45 分集合。

研修生は親御さんと一緒に順次到着。小野塚校長、後援会の熊倉会長、同窓会の高塚副会長がお見送りに来てくださる。

飛行機への搭乗手続きの後、空港内のレストランの和室に集合し、ささやかな、研修生の出発式を行う。

高塚副会長の司会のうちに、小野塚校長、熊倉後援会長から激励の言葉をいただく。

続いて、田邊君、森山君、石川君、佐久間君の4人の研修生が一人ずつ、自己紹介と今回研修に参加するにあたっての期待を語ってくれた。



お見送りの後援会会長(左)



激励の言葉を聴く研修生たち

そして、岡村団長が力強い決意表明とお見送りのお礼を述べた。

午後 1 時 40 分、アナウンスがありいよいよ搭乗、ゲートを通って研修生 4 人は足取りも軽く笑顔で、中国東方航空第 296 便の機内に向かった。

午後 2 時 10 分、離陸。

高度も十分に上がり水平飛行に入るが、気流が激しいようで、かなり機体の振動を感じる。20 分ほどすると乗務員が機内食を配り始めた。中国語っぽい日本語で「魚と海老?、魚と海老?」と繰り返しながら運んでくる。研修生たちは好きなほうを選び、早速味わっていた。

雲の切れ間がなく、霧の中を飛行しているようなもので、下界は見えず、また天界も見えず。乳白色の中を飛び続ける。気流の乱れによる揺れがあるのでベルトを締めるようアナウンスが何回か流れる。新聞の天気図を見ると日本列島にほぼ平行に前線が伸びている。飛行機はこの前線に沿って南下しているわけだから、納得。



搭乗前のゲートで



我々を待つ中国東方航空 296 便

午後4時ころに急激な降下を始めたようで胃が重たくなる。午後4時10分、アナウンスで着陸態勢に入る知らせ。4時30分着とのこと。石黒さん曰く、高度が下がれば長江が見える、教えてくれた。

昔、詩人は「唯看長江天際流」と詠じた。現代の我々は「唯看長江眼下流」であろうか。

残念ながら濃い霧のため、下界はほとんど見えなかった。

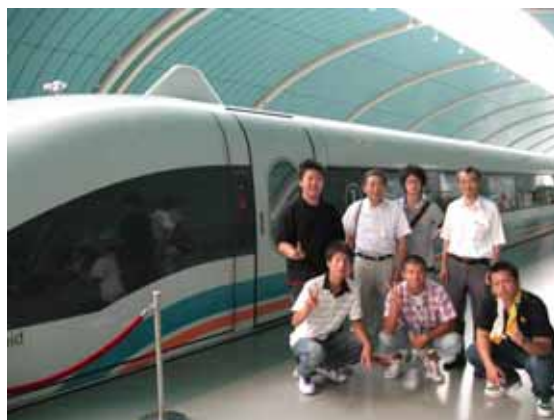
上海浦東国際空港着、さすがに国際都市、大きな空港だ。飛行時間2時間30分。研修生たちも緊張した面持ちで入国の手続きを行う。石黒さんに人民元のレートを経験のためにと勧められ、空港内の銀行窓口で手持ちの円を人民元に換金する。この日のレートは1元が日本円の16円であるから、5千円を換金すれば310人民元となる。言葉が通じない中にも研修生たちは何とかスムーズできたようだ。我々より先に入国していた斎藤靖さん、通訳の朶さんが空港出口で待っていた。

リニアモーターカー乗車

研修生たちが、出発する前から夢のようにあこがれ、是非乗りたいと強く願っていたもの実用化されたリニアモーターカーである。日本ではまだ試験運転の域を出ないが、上海ではドイツの技術を導入し2年前に開通した。

上海浦東国際空港駅から龍陽路駅までの40キロメートルがリニアの運行区間である。これを8分で結ぶ。最高時速は431km/hである。ちなみに、このリニアモーターカーは中国語では「磁懸浮列車」という。

午後5時00分に発車とのこと。私たちの腕時計は今、午後6時少し前を指している。日本と中国は1時間の時差があるので、上海に滞在する間、時計の針を60分戻しておこう。



リニア搭乗後 龍陽路駅で



通訳の 朶 向東さん

龍陽路駅では、私たちのための専用マイクロバスが待っていてくれた。午後5時20分にバスで出発。

車内で、朶さんから、上海滞在に当たっての注意事項を伝達される。かいつまんで紹介すると、

- 1 日本との時差は1時間。
- 2 飲み水には要注意、蛇口の水は飲めない。ボトル水を利用すること。
- 3 交通ルールは、車は右側通行。

上海は車優先社会、車所有者は優越感を抱いている。

- 4 上海は治安は良いがスリが多いので要注意。
- 5 日本円は使えない、円と元のレートは毎日変わる。
- 6 これからの日程の説明。
- 7 中国国土は960万平方キロメートル、人口は13億人。
- 8 中国の四大料理。上海料理、広東料理、四川料理、北京料理。
- 9 中国の車 世界各国の車が走っており、種類が非常に多い。
一番多いのはフォルクスワーゲンで6割を占め、上海で作っているものは7万元で買える。
中国では大衆車といえる。
広州で一番の人気車は日本のアコード、20万人民元（340万円位）もする。
- 10 上海は貧富の差が激しい。上海は中国で一番の経済都市。人口は、2千万人 面積は6万6千平方キロメートル。 二番目は北京で1千3百万人、三番目は広州。
- 11 上海は19の区に分かれている。そのうち8区は中心部、11区は郊外となる。
- 12 中国で人口が一番多いのは重慶で3千3百万人、二番目は上海。

朶さんこんにちは
 本名：朶 向東（だ こうとう）
 仕事：通訳 上海和平国際旅行社有限公司
 どうして通訳になったの？：学生の時、テレビドラマで「おしん」を観て日本と日本語に関心を持ちました。

説明を聞いているうちに、上海市の中心部に入る。街全体はスモッグに覆われているようで、どんよりとした曇り空。中心部に流れる黄浦江にかかる大きな橋。この橋は「南浦大橋」で上海の中心部。

上海は揚子江デルタ地帯、この一帯は500年前にできた土地。昔は小さな漁港であった。

1840年に清国と英国のアヘン戦争によって英領となる。1849年には各国が進出、いろんな国の建築物が見られるようになった。15年前の1994年までは黄浦江対岸には何もなかったとのこと。

7時15分に、バスは、我々の宿となる静安区の「美麗園龍都大酒店」に到着。ベージュ色のモダンなホテルだ。私たちの部屋は20階。

荷物を置いて、夕食のため7時半にホテルを出る。向かったところは「和平飯店」上海では一番古い店とのこと。



黄浦江にかかる南浦大橋

第2日目

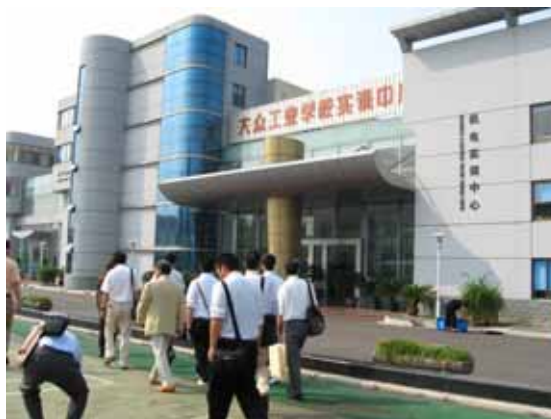
しゃんはいでーじゃこうぎょうがっこう 上海大众工業学校

午前10時 上海大众工業学校到着。

正門をバスで入り広い敷地を歩いて、応接棟に案内される。副校長から、学校の概要、生徒の様子について説明を聞く。

丁度、グラウンドでは、軍隊調の迷彩服を着た多くの生徒たちが整然と集まっている。聞けば軍事訓練の最中であるという。

水色のラインの入った制服を着た大人たちの指導を受けて、大きな掛け声をかけ合い、縦列駆け足、整列。機敏な動作である。この軍事訓練は一年生のみで学期初めの一週間をこの訓練に当てている。



工業学校実習センター建物



学校の様子の説明を受ける

国家の空軍の職業軍人が学校に出向き指導しているとのことであった。

新学期を迎えるこの時期に、緊張感と生徒たち同士の連帯感を養成する意味もあり、一人っ子政策の中で家庭で大事に育てられた子供に、努力して学ぶ気構えを植えつけさせるのだという。

この工業学校には、中学校を卒業して入学してきた16歳の子供たち。上海だけでなく広い中国の各地から集まってきた。1年、2年、3年の3学年で5000人の生徒。

入学してから多くの勉強があり、自分の興味、能力に応じて勉強を選択できる。5つの勉強（コース）がある。

- 1 汽車（自動車）
- 2 電気
- 3 機械電子
- 4 総合的文化
- 5 コンピュータ

一年間の学費は4000元。

1年生、2年生が学ぶのは理論が中心、3年生は実習に企業に行く。行き先は日本の企業も多い。

学校の目標は、人間作り、故に全国の子供たちに人気がある。就職率はほぼ100パーセント。ここ2～3年は学校の各方面の活躍があり発展している。



視察を終えて副校長と

一通りの説明をして戴いたあと、岡村団長から、新津工業高校の紹介と今後の友好について、そして、今回の視察受け入れのお礼をあいさつとして述べた。これに対し、副校長からも今後新津工業高等学校との共通部分があれば交流を深めたいと話しておられた。

研修生は・・・

工業学校校門から歩いてすぐにグラウンドで軍事演習を行う生徒の集団を目にし、日頃経験している体育祭での自校の生徒集団とは異なる雰囲気、まずびっくりした様子。言葉もなくしばらく見入っていた。国情の違いとは言え、一種のカルチャーショックを受けたのではないか。

軍事演習に参加している生徒たちは、研修生よりも若い15歳、16歳の子たちだ。それに女の子もいる。髪を後ろに束ねキリッとした格好で、男子と同じように訓練に参加している。

田辺君が、クラブ活動は、どのようなものがあるか、と質問していた。それに対する副校長の説明によると、日本の高校のように、活発なクラブ活動というのはこの学校ではないようだ。二年次では進学か就職かを判断し、3年次には企業に実習に入るわけで、実践力を身につけるカリキュラムが最優先されている様子であった。ただ、中国ではバスケットボールが人気のスポーツで、工業学校の生徒たちもよくやっているとのこと。それにしても、実習工場棟の中では、いくつもスローガンが掲げてありその一つに、「祖国の現代化建設に服務する為に努力して技術を学べ」という意味のものや、研修生たちが一生懸命意味を聞いていたものの中に「多一項目技能 多一份選択 多一點成功」。これは、一つ多くの技能を持つことは一つ多くの選択技が多く得られ、それは一つ多くの成功につながる、という意味とのこと。

日本の学校教育に比べ国家の為という精神が色濃く出ている部分もあるが、一人ひとりの生徒の能力を高めようという強い意志が随所で感じられる。



背後には軍事訓練中の生徒たち

朶さん教えて 中国の子供たちの様子は？

中国の学校は、小学生は6歳から12歳

中学生は13歳から15歳

高校生は16歳から18歳

最近の中国の親が、子供に対して心配するのは3つある。

① 成績 ② 高校生の早恋（早すぎる恋愛）

③ インターネット（はまってしまう子が多い）

子供同士のいじめは日本と同じようにある。

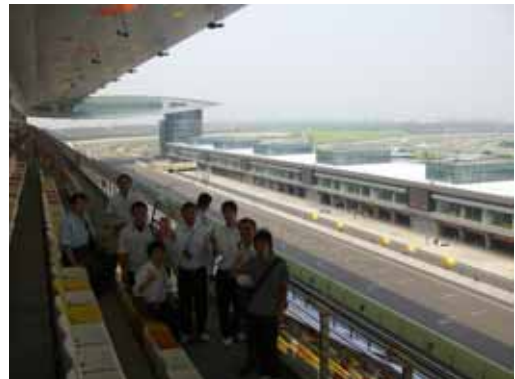
でも自殺はない。

F1 サーキット場。

到着後、建物のホールに入るなり、高校生4人の体が一箇所に向かって移動していった。何か、と思ったら少し奥まった壁面にフェラーリの大きな写真パネルが貼ってある。それを見つけて駆け寄っていったのであった。さすが機械科の生徒たち。目が早いし、体がそれに良く反応する。

このレース会場は、総面積55,684平方メートル、観客席数はメインの観客席で28,400席、コースの総延長が5.3キロメートル。

この10月には年1回のF1レースが開催される。その練習ということで赤、青、黄色などの数台のマシンがコースを走っていた。鋭い轟音を響かせながら目の前を右から左方向へと疾走する、マシンには、すばらしいものに出逢ったというような面持ちで、眺めていた。さすが工業高校生。ここでは予定時間をオーバーするほど熱心に見学していた。



大観客席からコースを眺める

上海汽車博物館

上海郊外の嘉定区は、上海の「汽車工場」といわれるほどに自動車工場の多い地区である。日本のトヨタやドイツのフォルクスワーゲンなど多くの自動車工場があるという。その嘉定区ならではの博物館がこの「上海汽車博物館」である。

一時間ほどの見学であったが、高校生たちにはF1レース場とともに、一番の興味を持った場所ではなかったと思う。

自動車という乗り物の草創期のものから近代のものまで、数多くの自動車を展示しており圧巻である。どの車もどの車も一つひとつ歴史の表情があって見飽きない。高校生たちは、一台一台の車に食い入るように眺めていた。クラシックなものより、やはりポルシェ、フェラーリなどスポーツカータイプが気に入ったらしく、いわゆる「カッコイイ」車の前では四人でお互いに何枚も何枚も記念写真を撮りあっていた。

ところで、会場展示物の一番入口近くに展示してあるものは、1959年に中国が国産車として最初に作った自動車。名前は「紅旗CA72型汽車」。黒塗りで、リンカーンを思わせる大きな車であった。排気量は書いていなかった。共産主義国家誕生から10年目、この自動車を世に出すことは、工業化を進める中国にとって国威発揚の重要な第一歩であったろうと推測できる。中国の上層の指導者たちが乗ったのだろうか。



お気に入りの汽車の前で

朶さん教えて

これ、どう読むの？

法拉利	フェラーリ	林肯	リンカーン
凱迪拉克	キャディラック	丰田	トヨタ
花冠	カローラ	福特	フォード

しんてんちじゅんかいろ

新天地淮海路見学

上海で一番にぎやかな繁華街が3つある。南京路とハイフア路、そしてこの新天地。この一帯は古くからの住宅地で、石積或いはレンガ積の古い建物が多くある地域。同地区の開発が進む中で、どのように古い街並みを残していくかが課題であった。ヨーロッパの建築家からアイデアを出してもらった。そして今のように、建物プラス人。人が集まる場所へと変貌し、街づくりに成功した地域である。欧米人も多く集まっている。欧米人は金融機関に関わる人が多いという。



落ち着いた街並みに囲まれた路地で、テーブル、椅子が並べられそこで語り、食べることができるエリアもあった。

新天地見学後、近くのデパート前を集合場所として、一時間ほど自由時間を持つこととし、高校生たちからも自由に買い物や、街の中を歩き回ってもらうこととした。



新天地界限



上海芸術文化見学

夕食は四川料理。朶さんから、本当の四川料理は、飛び抜けて辛く、中国の人でも半分の人しか食べられないと聞いていたが、今日の夕食は上海風の四川料理のようだ。例えば、麻婆豆腐は日本で食べているものとそう違

朶さん教えて

中国でケータイは安いの？

中国では、携帯電話のメーカーは「ノキア」と「モトローラ」が多い。

値段は、平均1500人民元くらい。

わない味であった。今日は、昼食が午後2時頃であったのと、午後はバスでの移動時間が長く運動量が少なかったせいか、高校生の箸の動きも早めに止まってしまった。

夕食後、上海雑技団の劇場に向かう。中国の上海といえば、上海雑技団をまず思い浮かべるくらい有名なのだそうだ。本物を見られるということで、研修生たちも行く前からワクワクした思いでいたようだ。上海の春や秋の観光シーズンにはチケットはなかなか入手できないのだという。劇場内には、観光客と思われる欧米や中南米の人たちが目立って多かった。日本人の観光客グループも大勢いたようだ。

雑技団の演技は本当にすばらしかった。鍛錬によって人間の身体をここまで芸術的に高めることができるとは。演技の見事な場面になると、外人の人たちの、特にラテン系の人たちの客席から、一斉に「オー！」などの感嘆の声と拍手が素直に響いてくるのだが、日本人グループの客席からはささやかな声と拍手が伝わってくる。同じものを見ていても感情の発露という国民性の違いが現れていた。我が研修生たちも立派な標準的日本人振りを発揮していた。

場内は写真撮影禁止であったので画像を紹介できないのが残念。研修生たちもマナー良く感動を持って中国の芸術に触れることができた。

第3日目

しゃんはいじょほひょうじゅんけんゆうげんこうじ
上海徐浦標準件有限公司

今日は工場視察である。

上海から伸びる大通りを右に曲がり、少し走るともう農村の風情の住宅地が見えた。素朴な生活振りがうかがえる。上海の経済が活発な中心部とは大きく異なる様相の地域である。

目的地は「上海徐浦標準件有限公司」。

有限公司とは日本でいう「株式会社」とのこと。

この会社は、建築に使う「ネジ」や「ボルト」などを製造している工場だ。13年まえに会社を創立、社員は現在四百人ほど。

中国の経済発展に乗って社業も順調で、去年の売り上げは1億人民元（日本円にして約15億円）。製品の6割は中国国内、4割は輸出している。日本にも輸出しているという。

品質要求の高い日本で認められることは世界中から信用を得ることになり、輸出先を拡大する戦略でいるとのこと。

会議室で、工場の概要を説明してもらった後、工場内の見学に回った。



上海の郊外にて



工場応接室で会社の製品を聞

工場棟は複数あり、原材料受入建屋、材料切断・成型工程、ねじ切り工程、めっき工程が分業化されていた。各工程ごとに従業員が機械に配置されており、工作機械は全体にかなり古いものを使っていた。日本で言うところと昭和30年から40年前半の製造工場の様子をかもし出していた。工場内の作業環境は良いものではなく、騒音、油煙、粉塵などに対して保護具の装着も無い中で、一生懸命に働くという環境であった。それでも、私たち見学者からすれば、鉄の棒状の素材から、一つひとつの工程を経て、大小様々なボルト類が出来上がっていく過程が、従業員の息遣いを感じるほど



製造工場内を視察



会社の製品群

スローガン社会を反映してか、工場の建物の壁にはいくつもの言葉が大きく書かれており、この建物には、製品の質と量の確保を迫及する標語が書かれていた。

に間近に見て回れたことは、大きな収穫であった。特に高校生からすれば、材料の鉄・鋼の性質や、ねじ切りなどの加工・成型など、新津工業高校に入学してから学んだことが、目の前で製品として仕上がっていく様子をつぶさに見学できたことは、大きな収穫ではなかったであろうか。工程の最後には、製品の強度、規格などを検査する検査室の建物もあり、工場構内に整然と梱包されて積み上げられた製品を見て、感慨深いものがあった。



工場の壁に書かれたスローガン

有限公司視察後、昼食。天津料理。生徒たちはいつもと違って、割合早く箸が止まる。佐久間君、石川君が今日は朝食を食べていないと聞いていたの

で、尋ねると、やはり腹具合が良くないとのこと。下痢はしていないとのことなので、少し安心したが、毎回の食事が脂っこいので食傷気味なのかもしれない。一人は、食べる前から「満腹感」があるという。もっとも、昨晚までの食事、後で考えれば四人とも食べ過ぎであった。本当に見えていて気持ちがいいほどの食べっぷりであったので、こちらも見とれていた部分があったのは反省事項。

とにかく、この土地の水によるものではないようなので安心した。何しろホテルの蛇口の水でさえ、泥臭いというか、微かに下水臭さえ漂うものなので、洗面や歯磨きで口に含むこともはばかる水なのである。

東方明珠 TV 塔

午後1時15分に東方明珠TV塔に到着。バスを降りると暑さが身にしみる。気温も一番高い時間帯である。それでも、私たちが上海に到着する前は日中気温38度という日もあったということで、この数日は過ごし易い気温なのだという。

写真で見るTV塔とはやはり雰囲気が違う。高さに圧倒される。東京タワーなどよりはるかに高い468メートルとのこと。早速、展望台に向かう。今日はガラとした感じで、スムーズに入場しエレベーターまで待つことなく歩けたが、観光シーズンにはエレベーター搭乗まで長蛇の列を為すとのこと。

エレベーターのドアが閉じてから、丁度50秒で260メートルの展望台到着。

眼下に上海の中心を流れる黄浦江、こちら側の一帯は、超高層ビルの群れ。惜しむらくは上海の上空全体が、スモッグに覆われていること。太陽もどこにあるかわからない。陽の光も一様に分散されている。



TV塔前で



TV塔展望台から森ビルを眺める
にシャッターを押していた。

TV塔脇のビル群も輪郭はわかるがかすんで見える。その中でもひときわ高く目立つのが、日本の森ビルグループが建設している「上海環球金融中心」だ。TV塔のすぐ近い場所に立っている。地上101階、高さ492メートルで世界一の高さの展望台となるとのこと。先月8月中旬に建築中のこのビルから火災が発生したとのニュースが流れていたが、上部の鉄骨がむき出しになっている建物のでっぺんにクレーンを据え付け、現在は平常に建築作業が進んでいるようだ。

朶さんの説明では、黄浦江の岸に中国海軍の軍艦が停泊しているということで、高校生たちは、「どれだ、どの船だ？」と探していた。海上交通も活発なようで、数十艘の

船船が往来している中に、黄浦江の向こう岸に軍艦らしき形の船を2艘見つけた。高校生たちは盛んに

朶さん教えて 中国の車はどうして右側通行なの？

上海は多くの国の植民地であった頃、イギリスの交通ルールにより左側通行であった。第2次大戦直後の1945年12月、車の右側通行に移行した。時の政権、中華民国（蒋介石）はアメリカ方式を取り入れたため。1949年に中華人民共和国となったが、交通ルールはそのまま、今日まできている。

よえん 豫園

豫園は四百年ほど前の 1559 年、当時この地方の知事、潘允端が自分の両親に贈った個人的な庭園である。

敷地面積が二万平方メートル、現在は上海市内の三大観光地に数えられている。

F1 や自動車博物館などの動の見学地に比べれば、静の趣きの場所であるが、設計精巧な建築物群や白居易も愛好したという太湖石を数多く使った庭園の造り、壁の上に乘せた大な龍の由来など、朶さんが一つひとつの特徴を説明してくれたので、四人も興味深く見て廻れた様子であった。

日本の京都・奈良に見られるものとはまた雰囲気が大きく異なる庭園であった。



豫園の有名な龍の前で

上海最後の夜には

研修最後の夜ということで、ホテルからタクシーで数分の距離の静安寺周辺の大衆食堂にて反省会を持つ。

この3日間、通訳としてお世話になった朶さんへの感謝の気持ちも表したい、との趣旨である。朶さんは通訳という立場のため、これまでの間、私達の食事のお世話はしてくれるが同席して一緒に食べることはなかった。

今回は朶さんを慰労の食事に誘ったのであった。

終えてから地下鉄で自宅まで帰ることになるので、かえって恐縮なのだが、それでも気持ち良く、お付き合いいただき感謝のいたりであった。



大衆食堂で感謝会

朶さんから、中国や上海の経済のことや教育のこと、国民性のこと、いろんな話を聞くことができた。研修生たちからは、今回の海外研修に参加した感想も話してもらった。

念願のリニアモーターカーに乗れたこと、街がすごく大きく活気があることや反面、物もらいに付きまとわれたり、貧富の差の存在を実感したり、それぞれが貴重な感想を語ってくれた。

岡村団長からは、ねぎらいの言葉と共に、来年も大勢の応募者が出るように、研修に参加して良かったという思いを是非、後輩達に伝えて欲しい、と要望されていた。

夕食時、食欲がなくあまり食べなかった石川君に、店のメニューにあった粥を注文して勧めたら、ちょうどお腹に合ったらしく、一椀平らげてくれた。その後は、なんともなかったように他の3人と同じように、もりもり食べてくれた。二時間前に夕食を食べたばかりなのに、と感心するほど4人は良く食べた。

朶さん教えて 中国では何歳から大人？
中国の法律では、18歳から大人。
法律上結婚が許されるのは、男22歳 女20歳
中国では「女は戦争より強い」と言われている。



田邊君 森山君



石川君 佐久間君



ホテルのロビーで（森山君撮影）

空港で

4日間、お世話になった朶さんともいよいよ、お別れである。バスの中で、食事時に、視察先で、中国について、上海についてたくさんのお話を語りかけてくださった朶さん。帰りの空港についてからも、持ち物のことやトイレのことまで心配りをしていただいた。

また、会える日が来ることを期待して。

「 謝謝！ 再見！ 」



浦東空港で朶さんと 記念撮影



中国東方航空 295 便

4 生徒の感想

研修で感じたこと 3年1組 田邊公一

私は始めて海外へ研修に行きました。初めて中国の上海へ行って人の多さと交通マナーの悪さにとっても驚きました。上海には各国からの旅行客がいて、日本人もいればアメリカ人などもいて本当に人の多さには驚きました。

交通マナーは、上海市内では人やバイクもそうですが車が多くて渋滞ばかりでした。渋滞の中でも上海の人は平気で割り込んできたりするのです。それから横断歩道でも人がいれば止まらなきやいけないうのに人がいても構わず通っていくんです。私は事故が起きてもおかしくないと思いました。



上海 夕方の帰宅ラッシュ

次に感じたことは上海の工業高校の事です。工業高校を見学して感じたことは、私たちと人数が違い、作っている機械などがとても多かった事です。作る物も私たちと違いとても難しそうだなあと感じながら見ていました。



旋盤の指導を受ける工業学校の生徒たち

上海の工業高校のみんなはやる気があって私たちにはない高度な技術を持っていることが実際に見てわかった。日本人の工業高校生も負けられないと思いました。

今回の海外研修はとても為になり、さまざまな事が学べたと私は思いました。今の上海の企業や工業高校の現況を自分の目で見れてよかったです。

海外研修を終えて 3年1組 森山貴人

僕が中国に行って一番初めに思ったことは、建物がでかいということです。高層ビルが立ち並び日本とは比べ物にならないくらいのスケールの違いがありました。しかし、作りは粗悪なものが多かったです。空港ではできたばかりなのに雨漏りしていました。



上海 外灘地区の高層ビル



天津料理に舌鼓

中国の食べ物はとてもおいしかったです。料理は全体的に油っぽいのですがサッパリとした素麺と一緒に食べると良いです。僕はチャーハンと小籠包が特に好きでした。料理の後には絶対スイカがでできます。水はおいしくありません。と言うか飲めません。とても泥くさく、うがいすらできません。

一番印象に残っているのは中国雑技団です。テレビでしか見たことがなかったので、一度生で見たいと思っていました。生で見て感動しました。そして、勇気をもらいました。

泊まったホテルもとても良かったです。そして通訳の朶さんも良い人でした。とても充実した四日間でした。

僕は中国上海への研修旅行に行って本当に良い思い出になりこれからの人生にとっても役立つ体験ができたと思います。また、行きたいです。ありがとうございました。

海外研修を終えて 3年2組 石川直輝

僕は今回、上海へ行く前はとても不安でした。まったく言葉も通じない海外だったので、食べ物や、治安などが心配でした。でも行ってみると、とても治安もよく、食べ物も一つひとつがとても美味しくて、つい食べすぎてしまいました。

今回とても心に残った事は、上海の夜景です。着いた初日は時間も夕方だったので、リニアモーターカーに乗り空港から街の中心部へ向かいました。そして有名なテレビ塔の見える川の対岸で夜景を見ました。そこではとても多くの観光客が



外灘の夜景を背に



街中で見かけた郵便局

いて混雑していました。その夜景は200万ドルの夜景だと言われています。景色に感動していると、偽ブランド物売りつけてくる人や、お金をめぐんでくれという人などが話しかけてきます。上海へ行って観光地やレストランの前などでは日本人などを見つけると、みんなよって来ます。そういう人たちには絶対に物をあげてはいけません。

今回上海に行って思った事はそういう高層ビ

ルが建っている下でお金を恵んでくれと言われて、貧富の差がとても激しいのだと思いました。

今回の上海の旅は色々な経験が一度に沢山できて最高でした。



保存された古い住宅地と新しいビル群

海外研修で感じたこと 3年2組 佐久間和明

私は三年生の夏に中国研修に行きました。

上海空港に着き、暑かったのが印象に残っています。リニアモーターカーに乗って時速400キロのスピードは振動が無く、とても乗り心地が良かったです。上海は地震が無いのでか立体交差点の柱がとても細く、日本の柱の2分の1くらいだと私は思いました。

私は中国と言えば自転車のイメージがありましたが、自動車やバイクのほうが多く道路はいつも渋滞していて驚きました。

1日目の夕食後に見に行った二百万\$の夜景は上海中心部の建物全体がライトアップされており、とても綺麗で感動しましたが、夜景の写真を撮っていると、コップを持ったおばあさんが、困った顔をして、「お金」と言ってきました。一度お金をやると、ほかの人も来るからできればお金はやらないほうがいいと事前に聞いていたので、知らんぷりするのには、



ボルト加工機械

胸が痛みました。

上海のねじ工場を見学してきました。おもに、ビルや橋などに使われるボルトやナットを製造していて、一日に約百tの生産ができるそうです。機械は古いけど、やっていることは技術のある仕事だと感じました。

さまざまな経験ができ、とても充実した研修旅行でした。



念願のリニアに乗車

生徒海外派遣研修を終えて

推進会議事務局長 齋藤 靖 (第20回電子科卒)

一作年の電気科閉科式典の大きな柱として行われた「生徒海外派遣研修基金」の創設に伴い集めて頂いた資金にて、今回の研修が行われましたことに際し、ご寄付戴いた皆様を始め関係各位には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

第一回目の実施として夏休みの最終週となる八月二十九日から九月一日までの3泊4日の行程にて生徒4名と引率者5名の計九名で中国上海市へ出かけて参りました。

主な視察研修内容としまして、

- ① 上海浦東国際空港から市内龍陽路駅までの「リニアモーターカー」の乗車体験。
- ② 中国国家級重点学校に指定されている工業系学校「上海大众工業学校」への表敬訪問。
- ③ 二年前に完成した「F1サーキット場」並びに「上海汽車博物館」の施設見学。
- ④ 中国独資の工業部品製造工場「上海徐浦標準件有限公司」の見学を行ってまいりました。

他にも上海の歴史的建造物や博物館など、各種施設への見学ができたことは、文化や芸術に関しても大変有意義な経験になったと感じています。

紙面の関係もあり、視察に関する詳細報告はできませんが、希望を持って参加した生徒達だけでなく、同行した九名全員が個々で感じる考え方は異なるにせよ、「世界の工場、世界の市場。中国」の実情と様々な格差を実感することができ、中国へ行ったことで日本を見直す良いチャンスにも繋がり、将来何らかの形で今回の訪中研修が役立つのではないのでしょうか。

今回の「生徒海外派遣研修」実施にあたり、ご苦勞頂ました関係者に感謝し、このすばらしい海外研修が第二回以降も実施できますよう皆様からの更なるご協力をお願いいたします。

(新津工業高等学校同窓会報第41号から転載)



編集後記

電気科閉科が生徒を海外に送るといふ大きな実をもたらしたことにただ感慨深いものを感じております。研修生も推進会議の要求によくついてきてくれました。研修生の報告文には多くの体験が凝縮されていると思います。私たちの年代ではもう使うことの少ない瑞々しい表現を目にし、うらやましさも感じてしまいました。まだ、言葉や文章に表現しきれないものも沢山抱えていると思います。成長とともにそれらを自分の言葉で語ってくれるでしょう。

上海は2010年に万国博覧会に向けて再開発が進められており「**Better City , Better Life**」をスローガンにしています。3日目に訪問した「上海城市歴史展示館」は万博啓発一色でしたし、研修先以外の様子など今回の報告書には割愛させてもらったものもあります。ほかにも私たちが汲み取れなかった部分も多々あると思います。

この報告書の読者諸氏におかれましては、生徒たちとお会いする機会を得ましたなら、この報告書に書かれている以外のものも多く語ってくれる楽しみも得られるでしょう。

報告書の文章についての責は全て編集者に帰するものでありますが、作成にあたり、関係の皆様から多くのアドバイスを頂きましたことを感謝申し上げます。

文責 島 倉 弘